

連載

働く女性 たちからの メッセージ

いきいき
仕事も生活も

会員企業で活躍されている女性社員の方々のキャリア、
働く上で心がけていること、仕事と生活の両立の知恵などをご紹介し
ます。
企業の女性活躍推進のヒントが見つかるかも知れません。

富原 加奈子さん
株式会社りゅうせき
事業開発本部 取締役事業開発発本部長
兼 窓口ホテルズ統括支配人



1980年入社。秘書・総務・営業・経営企画等を経て、現在は、不動産・ホテル飲食事業を含む、新規事業開発の分野を担当（次男出産時に、社内初の育児休業を取得）。

● 肩の力をぬいて、ひとつひとつ

気がつくとい入社して30年。秘書にはじまり、総務や産業燃料・生損保の営業、経営企画と様々な分野の仕事を経験させていただきました。特に最近の十数年は女性が配属されたことのないポジションばかりで、はじめは力みすぎて、空回りばかりでしたが、「男性の真似をするといふよりも自分なりに納得のいく仕事に一つ一つ取り組んでいこう」と思った時から、ふっと肩の力がぬけて、仕事との相性もよくなってきたように思います。

現在当社のホテル飲食事業の管理者の半数が女性です。ホテルやレストランの選択を女性を中心に行うことを考えると、顧客志向の変化や、新しいプランの設定等、女性の意見は不可欠です。また今後、様々な分野において、具体的な提案のできる女性の存在が、会社の盛衰を左右するといっても過言ではないでしょう。これからも、後輩の皆さんと共に新しい分野にチャレンジし、女性が自然体で活躍できるフィールドを拡げていければと願っています。



熊地 志乃美さん
日本生命保険相互会社
人事部 輝き推進室 業務主任



1993年千葉支社へ入社。窓口・電話等でのお客様対応や各種契約の事務業務に携わり、1998年契約管理部を経て2008年人事部輝き推進室。現在に至る。

● 「輝き」をつないで元氣な会社に

輝き推進室は「職員一人ひとりが輝きイキイキと仕事をする」ことで、会社も個人も成長し続ける企業へ」をコンセプトに2008年に設立され、北海道から沖縄まで全国で開催されるセミナーの支援や、年2回社外講師を招いた大規模なフォーラムを開催しています。またワークライフバランスの実現に向けた社内意識「風土改革」の推進を目的に、社内HPに様々なコンテンツを設け情報発信を行っています。私自身2児の母であり、限られた時間で効率良くアウトプットすることの重要性や職場の理解と協力の有難さを日々実感しており、自身の経験を元にこれまで両立支援ハンドブック制作やセミナー等様々な企画を立案してきました。アンケート等で「これまでの考え方が変わった」「できることから始めてみたい」といった声も多く寄せられ、地道な活動ですが確かな手応えを感じます。日本生命の原点は「人」です。これからもたくましく成長し続ける企業で在り続けるために、一人ひとりの「輝き」をつなぎ働きがいのある会社作りに奮闘していきたいと思えます。



森岡 さゆりさん
ダイキン工業株式会社
経理財務本部 経理グループ



2002年12月入社。（中途入社）
経理財務本部経理グループ所属。
主に、法人税関係を担当。

● 専門性を生かして、サポート

キャリア採用で入社し、8年目になります。その間、経理部で税務業務一筋でやってきました。
主な業務内容は、税務問題対応です。会社の事業拡大に伴い、税務面でも新たな問題が発生しますので、リスクを低減する対応を検討します。このような業務は、今まで経験した事がない内容が多くあり、色々な検討をして対応策を出していくことは大変な仕事ですが、その分、やりがいも感じられます。

現在の上司は、入社当時に仕事を教えてもらった女性先輩です。尊敬していた先輩が管理職として活躍されているのを見て、私もそのようになれるよう頑張ろうと思えました。私も後輩の目標となるような働き方をしていきたいと思えます。そして、堅く敬遠されがちなイメージのある経理部門を、もっと親しみやすく気軽に相談できる部署として、よりよく事業部門をサポートできるようにしていきたいです。



石田 喜恵さん

六花亭製菓株式会社
帯広販売部 道東支店長付



1993年入社。(17日目。内2年間は育児休業取得)札幌の店舗で店長、総括職を経て、結婚を機に帯広へ。2児の母。

●ワーキングマザーとしての誇り

実家は農家です。農繁期の朝は、子ども達だけで朝ごはんをとることが常でした。それでも「大きくなったら一生懸命仕事をしよう」と自然に思えたのは、いきいきと仕事に打ち込む両親に愛情一杯育ててもらったからだと思います。独身時代は寝ても覚めても仕事のことを考え、熱中していました。しかし、婦人科の病気で入院・手術。将来出産を考えるなら急いだ方が良くと言われ、結婚を踏み切りました。長女、次女を授かり、短縮時間勤務制度を利用し、長女は社内保育園に預けています。会社時間に優遇してもらいながら働けることへの感謝の念と、もっと思いつき仕事がしたい、という思いと。葛藤はあります。「子どもが可哀想」と言われることも。そんな時、子ども時代に父母に対して抱いた思いをかみしめています。子ども達に働くということの誇りや楽しさを伝えたい。「お母さんのような働く女性になりたい」と思ってもらえるように、六花亭で成長していきたいです。



佐藤 由紀さん

立命館生活協同組合
(大学生協京都事業連合(会員)
衣笠センター 常務理事
(びわこくさつキャンパス担当)



●多様な働き方が当たり前の職場を目指して

立命館生協は、学校法人立命館の中学校・大学内の食堂、購買・書籍、共済等福利厚生事業を通じて学生・教職員の方々のキャンパスライフを支える役割を担っています。現在、正規職員56名中女性職員は20名(育休中または育児時短勤務者含む)、そのうち店長または店長待遇の女性職員は4名です。決して大きい職場ではありませんが、歴史的に定年まで働く女性職員も多く、様々な働き方やキャリアが受け入れられている職場です。

自身は2〜3年毎に担当や勤務地が変わり、立命館アジア太平洋大学店(別府市)では2年間の、単身赴任も経験しました。昨年には常勤役員をお引受することになりましたが、職員と役員の違いがありますし、正直迷いました。今は役員も組織の中で必要なひとつの仕事であり、新しい担当への「挑戦」と考えるようになりました。

女性職員だからこそ、あるいは女性職員であっても「ひとりの職員」として経験・挑戦ができ、その人なりの働き方や多様な働き方がごく普通の組織でありたいと思いますし、役員としてそうした風土を今後も大事にしたいと思っています。

